



↑芸術鑑賞会の様子



9/9 芸術鑑賞会「影絵～ゲゲゲの鬼太郎～」 引き込まれる影絵の世界

この日、町民センターで町内の保育所児と小学4年生から6年生を対象とした芸術鑑賞会「妖怪影絵～ゲゲゲの鬼太郎～」が開催されました。東京を中心に活動している劇団影法師による、牛の皮をなめして作った人形を使う中国の伝統的な影絵劇が披露され、子どもたちは鬼太郎の活躍を大きな声で応援していました。観劇後はワークショップが行われ、児童代表6人が小道具を使った効果音を練習し、その効果音を使った短編劇を実演。参加した児童は「うちわや貝殻とかの身近なものでいろんな音を出せることに驚いた」と笑顔で話してくれました。

9/17 町内事業者の技術がJIS規格に制定 日本初の非破壊検査方法

日東建設株式会社が開発したボルト・ナットの検査装置「BOLT-Tester」の技術が、2024年6月に日本初の『非破壊試験 - ボルト接合部の機械インピーダンスの測定方法』として^{*1}JIS規格に新しく制定されました。「BOLT-Tester」は、ハンマーで叩いた時の反動が波形図として表示され、その波形の形からボルト・ナットの緩みや破損の有無などを簡易かつ高精度で検査することができます。同社久保毅剛社長は「世界的にもボルト・ナットなどの検査は人の感覚に頼る打音、触診、目視が主流。この技術が広く普及することで、ボルト・ナットの緩みなどに起因する事故が少しでも減少してほしい」と話していました。



↑「BOLT-Tester」の実演の様子

9/22, 23 北海道雄武町鮭まるごと体験モニターツアー 雄武の魅力の発信に

この日、雄武町観光協会が主催する「北海道雄武町鮭まるごと体験モニターツアー」が行われ、関東圏に在住する男女4名が雄武町を訪れました。一日目は、地元漁師からサケの解説とともに捌き方を教わり、一人で一匹のサケを三枚におろす体験を行い、夕方には捌いたサケを使った焼き床で雄武町の味覚を楽しみました。二日目は、沢木漁港で漁港散歩やサケの水揚げを見学し、大漁のサケが水揚げされる迫力に参加者たちは驚きの声をあげていました。参加者からは「サケと雄武町について学ぶことができて楽しかった。次はプライベートでもきたい」などの声がありました。



↑モニターツアーの様子

^{*1}JIS規格（日本産業規格）：日本の産業製品に関する規格や測定法などが定められた日本の国家規格のこと。

8/30 戦没者追悼式 恒久的平和を願い

この日、雄武町民センターで令和6年度雄武町戦没者追悼式が挙行され、式典には遺族や来賓が参列。国歌斉唱、黙とうが行われた後、雄武町遺族会会长の館山光司氏から「二度と悲惨な戦争を繰り返さないために、対戦が残した教訓を次の世代へしっかりと伝え続けていきたい」と追悼の辞が述べられました。最後に、144人の戦没者の英靈に対して参列者全員で献花を行い、戦没者の冥福と平和を祈りました。



↑戦没者への献花の様子

9/5 雄武中学校2年生家庭科 高齢者の視点を疑似体験

この日、雄武中学校2年生が家庭科の授業で、「高齢者疑似体験」を行いました。講師に包括支援センター職員を招き、身体に重りや老眼グラスなどを装着して階段の上り下りなどの日常的動作や車いす体験を行い、高齢者の日常生活で大変なことや介護・介助の方法や必要性などを知って高齢者との関わりについて学習しました。参加した生徒からは「お年寄りや困っている人を見かけたら優しく手助けをしようと思った」などの声がありました。



↑足場の不安定な場所での車いす体験の様子

↓スライムをつくる子どもたち



9/1 風の子児童センターこどもまつり あふれる笑顔

児童センターで「こどもまつり」が開催され、会場には子どもと親子連れ約160人が集まりました。オープニングでは、ユニサイクルおうむによる一輪車演舞が披露されました。子どもたちは、縁日の定番である射的や型抜き、スーパーボールすくいなどの遊びを楽しみ、手作りコーナーでは自分だけのスライムやキーホルダーを作り友達同士で見せ合うなど、笑顔でお祭りを楽しんでいました。

↓イコカラ納涼祭りの様子



9/6 イコカラ納涼祭り 目指せハイスコア

この日、地域活動支援センターコカラで「イコカラ納涼祭り」が催され、利用者と関係団体の14人が参加。チームに分かれて、お手玉を点数の決められた穴に入れるお手玉bingoやお玉でくったおやつをリレー形式で獲得するお菓子リレーなどのゲームを行い、最終的なスコアを競い合いました。参加者からは「クイズでなかなか答えが出せなかつたけどチームで協力して高得点をとれてよかったです」などの声があり、終始和やかな雰囲気で行われ、交流を深めました。